

用語解説

ここでは、本方法書を読むうえで知っておく必要がある基本的用語について、簡単に解説をする。詳しい情報については「森林土壌インベントリ方法書 第四期版 (1)野外調査法」(以下、野外調査法という)も参照すること。

格子点 ID：

森林生態系多様性基礎調査の格子点 ID。調査プロットの識別に使用される。5 桁または 6 桁の数字からなるが、本事業では 5 桁の調査地点について先頭に「0」を付けて 6 桁に統一している。末尾は 0 または 5 であるが、試料採取は末尾 0 の地点のみで行われる。

採取形態：

定積細土重測定用定体積試料の採取方法。400ml の採土円筒により採取された場合は V、ブロックサンプリングの場合は VB、化学分析用土壌試料を兼ねる場合は VBC と表示される。試料リストに情報が記載されている。(野外調査法 44～46、72～73 頁)

細土：

土壌試料を細かく砕き、孔径 2mm の円孔篩を用いて篩別し、根と礫を取り除いて粒径 2 mm 以下の土粒子だけ分け取った土。篩別した土壌試料が風乾状態の場合は、風乾細土とよばれる。

試料 ID：

野外調査で採取された試料および試料調整で作製された混合試料に付けられる固有の番号。野外調査で採取された試料については試料リストに情報が記載されている。

試料情報：

調査年月日、格子点 ID + 調査位置記号(化学分析用混合土壌試料は格子点 ID のみ)、試料名。試料の袋に記載されている(野外調査法 8～9 頁)。試料リストにも情報が記載されている(野外調査法 72～73 頁)。

試料名：

採取試料の種別を表す。化学分析用混合土壌試料の場合は採取深度と C になる。定体積試料の場合は採取深度と採取形態、堆積有機物試料の場合は T（枝、球果など）または K（T 以外の植物遺体）になる。（野外調査法 8～9 頁）

試料リスト：

野外調査法の様式 A5 である。採取された試料の一覧表で、試料情報が記載されている。各調査プロットの試料と共に一組で取り扱われる。（野外調査法 72 頁）

試料容量：

定体積試料の体積。採土円筒試料（V）の場合は 400cm^3 、ブロックサンプリング試料（VB、VBC）の場合は 2000cm^3 あるいは試料リスト（様式 A5）に記載された採取ブロックの体積になる。

堆積有機物試料：

地面（林床）に堆積している植物遺体（枝、落ち葉、球果など）の試料。T（枝、球果など）と K（堆積有機物層、L, F, H）に分けて採取される。（野外調査法 38、40、68 頁）

土壌採取深度：

化学分析用土壌試料および定体積試料を採取する土壌の深さ。0～5cm、5～15cm、15～30cm の 3 深度で採取する。（野外調査法 44～46 頁）

風乾：

高い温度の乾燥器を使わずに、室内など風通しの良い日陰で試料を自然に乾燥させること。試料全体が均等に乾燥し一定重量になるまで乾燥させる。直射日光に当ててはいけない。